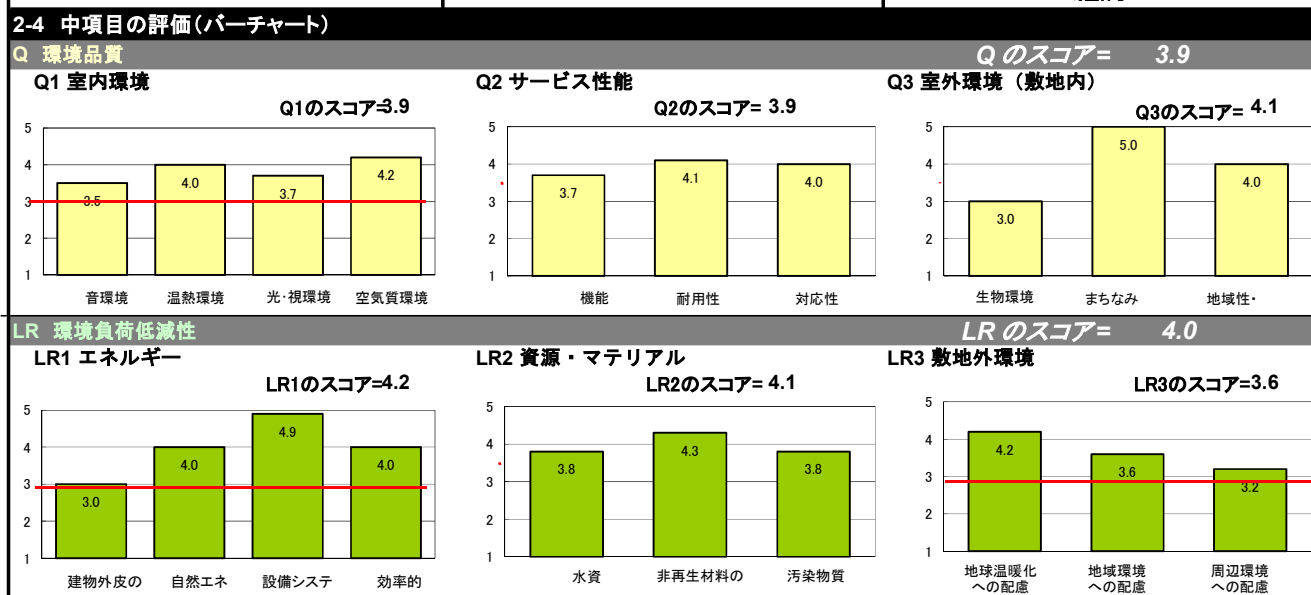
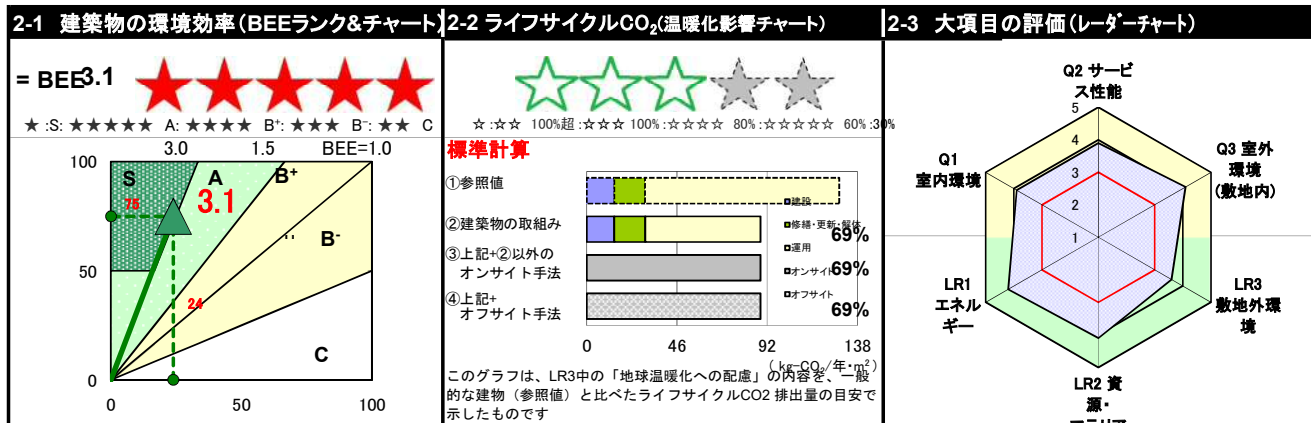


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)第2名古屋三交ビル再開発計画	階数	地上14F、地下1F
建設地	名古屋市中村区名駅三丁目1905番及び1906番	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 竣工	評価の実施日	2021年11月29日
敷地面積	2,745 m ²	作成者	
建築面積	1,631 m ²	確認日	2021年11月29日
延床面積	17,927 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
西日を遮りつつ、建物の顔となる西面ルーバーを中心に省エネルギー性に配慮したオフィスビル。		・特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
自然制御ブラインドによりグレアを制御した。空気環境に配慮して仕上げ材は☆☆☆☆を採用するよう計画した。	執務空間の天井高を2.7m以上とし、快適性に配慮した。バースを用いた検討により、内装デザインに梁よした計画とした。	景観に配慮した西面ファサードと、広場状内部空間により街並みに配慮した計画とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LEW-eガラスの採用をはじめ、建物の空調負荷を削減した。	衛生器具は全面的に節水型器具を採用した。既設躯体を再利用した計画とした。雨水利用を行った。	十分な駐車台数を確保し、交通負荷抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

(仮称)第2名古屋三交ビル再開発計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				4.1
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.1



2. 自然共生

評価点 = 3.1



3. 循環型社会

評価点 = 4.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。